

Strix 9: 167-175 (1990)

北カムチャッカの鳥類

築田貴司¹

はじめに

ソビエト連邦の中でも、カムチャッカ地方はこれまで外国人の立ち入りがむずかしく、鳥類を含めた自然関係のデータがきわめて少ない場所といえる。

日本野鳥の会は、イーストコーポレーション(株)より当該地域の調査への協力を依頼され、1990年6月23日より7月6日までの間、現地の鳥類調査を行なった。以下にその結果を報告する。

報告するにあたり、今回のカムチャッカ行きをセッティングしていただいた日本野鳥の会森下強総務部長、園部浩一郎普及部長、研究センター樋口広芳所長、カムチャッカ関係の資料を送っていただいた「雁を保護する会」会長呉地正行氏、および現地で親切なガイドをくださった6人のソ連側スタッフの皆さんに厚くお礼申し上げる。

調査地域

調査期間中、カムチャッカ北部のベーリング海に面したコルフの町(北緯約60°、東経165°付近)を中心に以下の3か所をまわった(Fig. 1)。これらの地域への移動方法は、陸路がまったくないためヘリコプターを利用するしかない。

- ① ゴーベン半島の入り江(コルフの東約73.5km, 6/24~25)
- ② ベルホツロフ島(コルフの南西約105km, 6/26~29)
- ③ トルガワヤン川(コルフの北西約147km, 6/29~7/2)

調査期間と方法

調査期間は1990年6月23日から7月6日まで。移動が不定期で、事前にくわしいスケジュールを知ることができなかったため、各ポイントでの調査方法は定点カウントおよびルートセンサスに準じる方法をその場で判断し、使いわけた。

調査結果と考察

1. 確認した鳥類について

この調査で確認した鳥類は16科54種であった。

1990年11月20日受理

1. 日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ。〒059-13 苫小牧市植苗150-3

現所属：日本野鳥の会 普及部普及室。〒150 渋谷区渋谷1-1-4

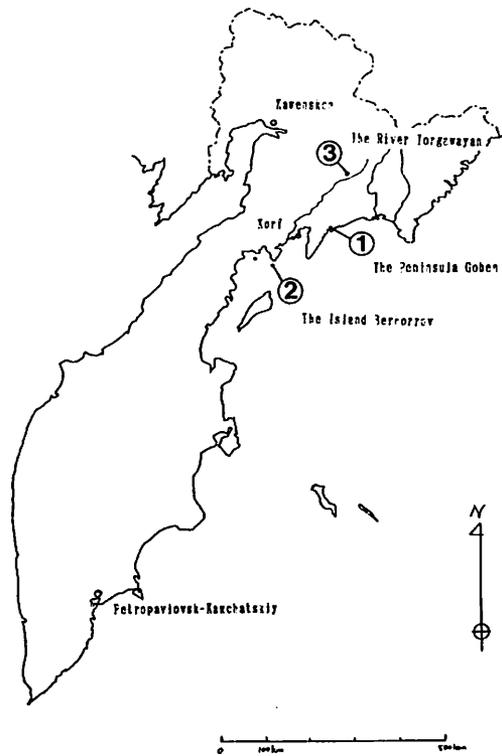


Fig. 1. The surveyed areas.

1) ゴーベン半島

6月24日12時10分、コルフ空港よりヘリコプターで出発、途中海岸に着陸して1時間15分ほど休憩した後、16時50分に到着した。

途中の海岸で、オジロワシ *Haliaeetus albicilla* の幼鳥を1羽確認した。カムチャッカにおける本種の全数は約250~300つがいて、そのほとんどが北部内陸の河川沿いで繁殖している (Lobkov 1986) ため、調査期間中オジロワシを確認したのはこの1回だけである。

当日は海岸から2 km離れたキャンプ地での定点調査を実施した。25日にはキャンプ地から海岸までの間を移動しながら鳥類を記録、全23種を確認した (Table 1)。

ここはベーリング海のオリュートル湾に面したカール状の入り江で、海からの入口が砂州によって狭くふさがっているため、内部の水は淡水である。両岸には雪渓を残したガレ場が多く、植生はほとんどハイマツ状の針葉樹で、平地にはツンドラ特有のハナゴケも多くみられた (Fig. 2)。ヒグマ *Ursus arctos* が生息しており、地上では1頭、また移動中のヘリコプターからは3頭の当年子を連れた個体も観察することができた。

入り江の内部ではシノリガモ *Histrionicus histrionicus* が多くみられた。海岸部および海岸から続く草原では、ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus* が多く観察できた。営巣は確認できなかったが、ヒバリと同様に鳴きながら上空を飛ぶ行動をくり返していたので、繁殖している可能性が高い。

この草原で、25日にはハシグロヒタキ *Oenanthe oenanthe* の雄夏羽を1羽確認した。

本種のカムチャッカでの観察例は少なく、コリャーク高地ペンジナ川沿いのカメンスコエとツナヴァヤム川上流での記録があり、これらの地点が本種の分布南限であるとされている (Lobkov 1986). 今回の観察記録はこれらよりさらに南であるため、繁殖期の記録としては興味深い。

2) ベルホツロフ島

ベーリング海に浮かぶ離島。周囲約 5 km, 最高点の標高は 700 m である (Fig. 3). 6 月 26 日正午にコルフからヘリコプターで向かった。13 時 10 分に到着。この日はキャンプ地

Table 1. Birds observed on Goben Peninsula on 24 and 25 June 1990.

	Species	No. of individuals		Total	Dominance (%)
		Jun. 24	Jun. 25		
ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>	50	30	80	10.81
ズガモ	<i>Aythya marila</i>	2		2	0.27
ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>		13	13	1.75
シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>	7	45	52	7.02
ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>		6	6	0.81
ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	10		10	1.35
カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>		10	10	1.35
オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	1		1	0.13
イソシギ	<i>Tringa hypoleucos</i>	1	1	2	0.27
オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	50	50	100	13.51
シロカモメ	<i>Larus hyperboreus</i>	1		1	0.13
カモメ	<i>Larus canus</i>	60	30	90	12.16
ミツユビカモメ	<i>Larus tridactylus</i>	70	200	270	36.49
アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>	52		52	7.02
エトビリカ	<i>Lunda cirrhata</i>	5		5	0.67
ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	1		1	0.13
ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>		5	5	0.67
ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	5		5	0.67
ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		1	1	0.13
ムネアカタヒバリ	<i>Anthus cervinus</i>	15	10	25	3.37
ハシグロヒタキ	<i>Oenanthe oenanthe</i>		1	1	0.13
ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		2	2	0.27
ムジセッカ	<i>Phylloscopus fuscatus</i>		1	1	0.13
カラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>		1	1	0.13
ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>		1	1	0.13
ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	1		1	0.13
ワタリガラス	<i>Corvus corax</i>		2	2	0.27
Total		331	409	740	



Fig. 2. Goben Peninsula.



Fig. 3. Berhozrov Island.

からみえる範囲のコロニーの個体数を調査したほか、草原部の調査を実施した。27日、28日には場所を変えて同様の調査を行なったが、特に変化はなかった。最終的には、海鳥を中心に20種類の鳥類を確認した (Table 2)。

島の北東から南にかけての海岸は高さ20~60mの断崖で、海鳥のコロニーになっている。北から南西にかけては海岸段丘をともなった砂浜で、ここはセイウチ *Odobenus rosmarus* の雄だけが集まる休息所になっている。調査中も、最高で218頭の群れを確認した。海岸部の植生はほとんどイネ科と思われる草が中心であるが、海岸段丘上はハナゴケとミズゴケを中心としたツンドラ特有の環境になっている。これらのコケ類は厚さが30cm以上あり、その下は凍土になっていた (ハナゴケはウトナイ湖の対岸にある古砂丘にもみられるが砂の表面をおおう程度である)。この環境は最高点の近くまでほとんど変わらないが、雪溪から流れ出る川沿いや湿原になった場所には4種ほどの低木が認められた。

島の海岸線の約半分を占める断崖部分では、ハシブトウミガラス *Uria lomvia* (優占度45.9%)、ミツユビカモメ *Larus tridactylus* (38.3%)、ウミガラス *Uria aalge* (7.7%)、エトビリカ *Lunda cirrhata* (0.4%) の4種がコロニーを形成していた (Fig. 4)。調査地点から見渡せる幅300mほどの区域についてカウントを試みたところ、ミツユビカモメ

Table 2. Birds observed on Berhozrov Island from 26 to 29 June 1990.

Species	No. of individuals				Total	Dominance (%)
	Jun. 26	Jun. 27	Jun. 28	Jun. 29		
ヒメウ <i>Phalacrocorax pelagicus</i>	100	100	100	100	400	0.76
コケワタガモ <i>Polysticta stelleri</i>		7			7	0.01
ホンケワタガモ <i>Somateria mollissima</i>			4		4	0.01
オオセグロカモメ <i>Larus schistisagus</i>				500	500	0.96
カモメ <i>Larus canus</i>		10			10	0.02
ミツユビカモメ <i>Larus tridactylus</i>	5,000	5,000	5,000	5,000	20,000	38.26
ハシブトウミガラス <i>Uria lomvia</i>	6,000	6,000	6,000	6,000	24,000	45.92
ウミガラス <i>Uria aalge</i>	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000	7.65
ウミバト <i>Cephus columba</i>		20			20	0.04
ウミスズメ <i>Synthliboramphus antiquus</i>		1,000	1,000	1,000	3,000	5.74
ウミオウム <i>Aethia psittacula</i>		4			4	0.01
ツノメドリ <i>Fratercula corniculata</i>		3			3	0.01
エトビリカ <i>Lunda cirrhata</i>	60	50	50	60	220	0.42
コミミズク <i>Asio flammeus</i>		1			1	0.00
ツメナガセキレイ <i>Motacilla flava</i>	2	2	2	1	7	0.01
ムネアカタヒバリ <i>Anthus cervinus</i>	1	3	1		5	0.01
ノゴマ <i>Erithacus calliope</i>		1			1	0.00
シマアオジ <i>Emberiza aureola</i>	1	1			2	0.00
ベニヒワ <i>Acanthis flammea</i>	3				3	0.01
ワタリガラス <i>Corvus corax</i>	22	20	20	20	82	0.16
Total	12,189	13,222	13,177	13,681	52,269	

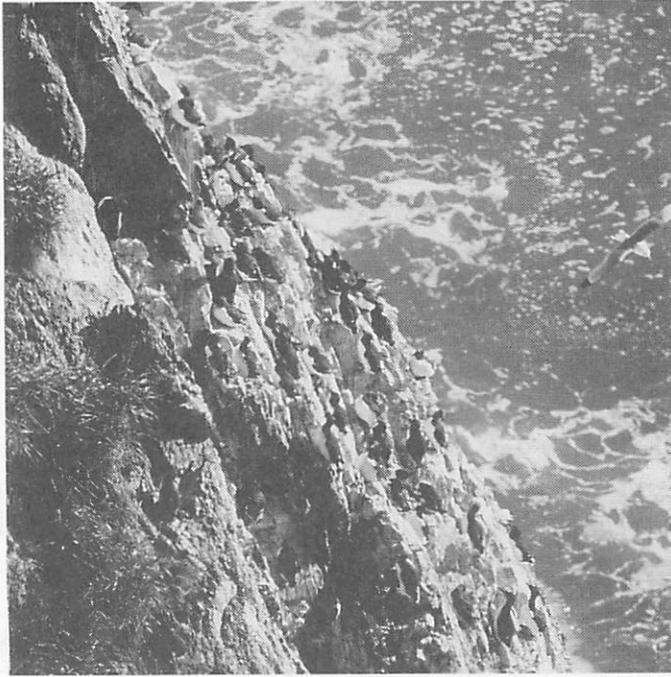


Fig. 4. A colony of seabirds.



Fig. 5. A nest of the Raven.

5,000羽, ハシブトウミガラス6,000羽, ウミガラス1,000羽, エトピリカ60羽という結果になった。断崖の部分は距離にして2.5kmあるので島全体ではこの8.3倍の数になる。コロニーの中にはこの他にもヒメウ *Phalacrocorax pelagicus* が観察できたが, 繁殖は確認できなかった。過去の記録によると, ベルホツロフ島ではミツユビカモメが25,000~130,000羽, ハシブトウミガラスが3,500羽~100,000羽繁殖し, ミツユビカモメについてはカムチャッカの繁殖地で最も多数集まる場所になっている (Lobkov 1986)。

島の最高点付近にはワタリガラス *Corvus corax* が多くみられた。吹き上げる気流に乗りながらここで待機し, ときどき1~3羽ほどで前述の海鳥のコロニーに降りていった。調査中, コロニーから離れた場所でウミガラス類の割れた卵が見つかったこと, またピーク付近にあったペリットの内容物に羽毛と骨が多くあったことから, ワタリガラスはコロニーにおいて海鳥の卵やヒナを捕食していたものと思われる。海鳥のコロニーに近い断崖の上で, 1つがい繁殖しているのも確認した (Fig. 5)。

近くの海上ではホンケワタガモ *Somateria mollissima*, コケワタガモ *Polysticta stelleri*, ウミバト *Cepphus columba*, ウミオウム *Aethia psittacula*, ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus*, ツノメドリ *Fratercula corniculata* などを確認した。これらの海鳥は島周辺の海域で採食していた。

草原部では, ツメナガセキレイ *Motacilla flava* が最も多く観察され, 巣とヒナも確認することができた。他にはムネアカタヒバリ, ノゴマ *Erithacus calliope*, シマアオジ *Emberiza aureola* のさえずりを確認した。ベニヒワ *Acanthis flammea* は黒みの非常に強い夏羽で, 激しく警戒音を発していたため, 近くに営巣していたものと思われる。

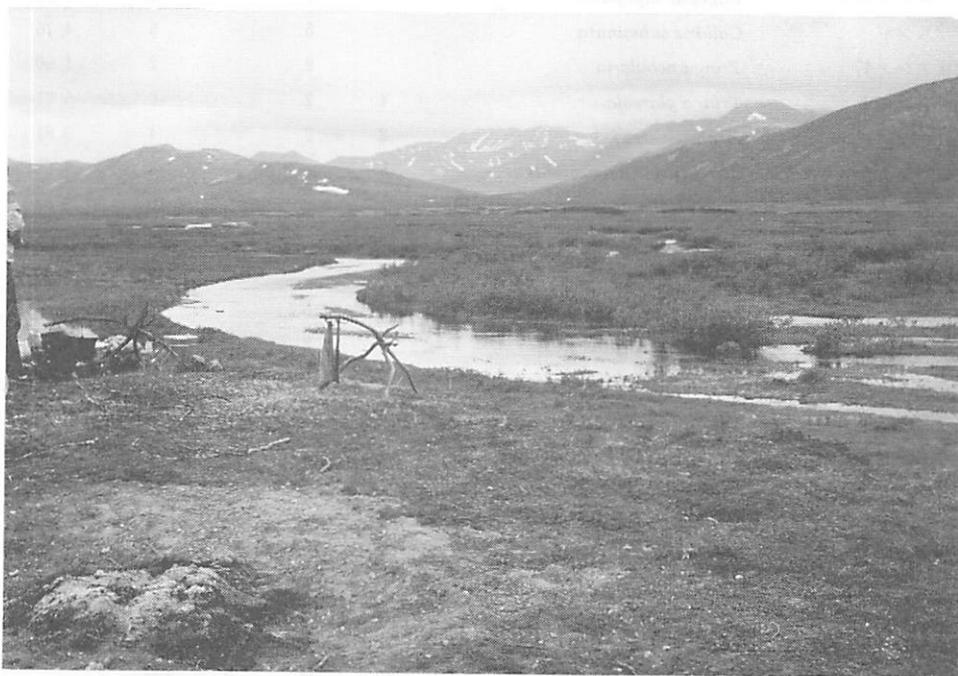


Fig. 6. Torgawayan River.

3) トルガワヤン川

海からは約100kmほど離れた内陸部である (Fig. 6). 6月22日15時15分, コルフをヘリコプターで出発, 17時に到着した. その日はキャンプ地からの定点観測のみ. 6月30日と7月1日には移動しながら観察を行ない, 23種を確認した (Table 3).

トルガワヤン川は川幅が1kmほどあるが, 水深は非常に浅く最深部でも60cmほどである. 流れの中にはたくさんの中州がある. ここにはヤナギ類を中心とした低木が多くみられ, 野鳥に繁殖場所を提供している. 周辺の植生は1)のゴーベン半島とほぼ同じである. 遊牧されたトナカイ *Rangifer tarandus* が400~500頭の群れで移動しているのが観察できた.

カモメ *Larus canus* は繁殖期には川に沿ってかなり上流まで入る (Lobkov 1986). 今回の調査でも最も優占度が高かった. また, コオリガモ *Clangula hyemalis* も, カムチャッカではかなり内陸に入って繁殖するため, 確認することができた.

Table 3. Birds observed on Torgawayan River from 29 June to 2 July 1990.

Species	No. of individuals				Total	Dominance (%)
	Jun. 29	Jun. 30	July. 1	July. 2		
ヒシクイ				2	2	1.90
コガモ			1		1	0.95
コオリガモ			1		1	0.95
カワアイサ		2			2	1.90
ヌマライチョウ			2		2	1.90
ヒバリシギ			5		5	4.76
アオアシシギ			2		2	1.90
タカブシギ		4	2		6	5.71
ソリハシシギ		2	2		4	3.81
シロハラトウゾクカモメ		8			8	7.62
ユリカモメ	10				10	9.52
カモメ	10	16			26	24.76
アジサシ		2			2	1.90
カッコウ		2	2		4	3.81
ツツドリ	1		2		3	2.86
ヒバリ		2			2	1.90
ショウドウツバメ				1	1	0.95
ツメナガセキレイ		4	3		7	6.67
ハクセキレイ	1				1	0.95
ピンズイ	1				1	0.95
オガワコマドリ			6		6	5.71
コホオアカ		2	3		5	4.76
ベニヒワ		2	2		4	3.81
Total	23	46	33	3	105	

タカブシギ *Tringa glareola* は地上や樹上から調査者に対して強く警戒音を発した。営巢中だった可能性が高い。またソリハシシギ *Xenus cinereus* が、水辺でキビタキによく似た「ピッピリピー、ピッピリピー」という声で鳴いていた。これは終日聞かれ、繁殖期特有のものと思われる。

7月2日、キャンプ地からコルフ空港へ向かうヘリコプターの中から、飛行中のヒシクイ *Anser fabalis* 2羽を確認した。今回の調査地は、本種の繁殖地の南限に近く、移動中も含めてかなり注意していたが、確認できたのはこの1回だけであった。本種は、このあたりでは過去15年ほどの間に生息数が非常に減少し、現在も減り続けている (Lobkov 1986)。

おわりに

ベルホツロフ島に滞在したさいに地元のレンジャーから聞いた話では、カムチャッカ州は1991年から外国人でも自由に入れるようになるということだった。すでにテレビ局など一部のマスコミが取材を進めているが、我々一般人がカムチャッカを探鳥旅行することもできるようになるだろう。今回は入れなかった南カムチャッカには、森林や湿原を含む豊かな環境がある。半島の西海岸沿いの大湿原地帯にはヒシクイの換羽地もあることがわかっている。変化に富んだ環境と、大陸系の野生鳥獣は、私たちを魅了することだろう。しかしその反面、外国からの観光客をみこんで大規模な開発行為が進行していることも事実である。カムチャッカが私たちの身近になるとき、私たちはその自然環境に対する新たな責任も背負わなければならないことを忘れてはならない。

引用文献

E. G. Lobkov. 1986. カムチャッカで繁殖する鳥類 1, 2. 極東鳥類研究会, 1988.

Bird survey in the northern part of Kamchatka Peninsula, USSR

Takashi Tsukida¹

The bird survey was conducted in the northern part of Kamchatka Peninsula, USSR, from 22 June to 6 July 1990. Three areas were visited. In Goben Peninsula located on the seashore, 27 species of birds were recorded. The Black-legged Kittiwake *Larus tridactylus* was dominant. In Berhozrov Island, 20 species were recorded. There was a colony of sea-birds, including Kittiwake *Larus tridactylus*, Brunnich's Guillemot *Uria lomvia*, Common murre *Uria aalge*, and Tufted puffin *Lunda cirrhata*. There were about 100,000 birds in this colony. In the inland Torgawayan Rever 23 species were recorded. Sixty two species were observed in total.

1. Utonai-ko Sanctuary. 150-3 Uenae, Tomakomai-shi, Hokkaido 059-13

Present address : Education Division, Wild Bird Society of Japan. 1-1-4 Shibuya, Shibuya-ku, Tokyo 150